

個人情報の公開に無防備な子どもたち

埼玉県教育委員会

インターネットにはSNSやブログなど、誰でも簡単に情報を発信できるサービスがたくさんあります。子どもたちのあいだでもこうしたサービスは人気で、友だちとコミュニケーションをとったり、その日あったことや感じたことを日記のように書き込んだりしているものをよく目にします。

しかしその一方で、自分や友だちの個人情報を載せてしまう子どもたちもおり、見逃せない問題となっています。

よく見られる個人情報の書き込み

では、実際に子どもたちはどのようなかたちで、個人情報をインターネットに載せているのでしょうか。

よく見られるのが、SNSなどのプロフィール欄に自分の個人情報を書き込んだものです。SNSなどのサービスには、他の利用者に自己紹介できるプロフィール欄があり、そこに学校名や部活名、本名、居住地、顔写真などの個人情報を載せている子どもたちが多くいるのです。

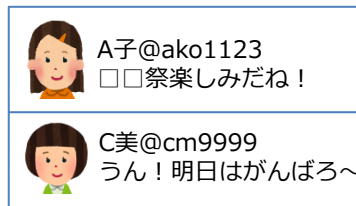
また他に多いのが、友だちと一緒に撮った写真などを投稿しているものです。遊びに出かけたときや、文化祭や体育祭などの学校行事のときなどに、その記念として友だちと写真を撮り、顔がはっきりとわかる状態のままインターネットに載せているものをよく見かけます。中には、制服や体操服、部活のユニフォームなどを着用して撮影しているものもあり、そこから学校名や部活動などが判明してしまうケースもあります。



意図せず個人情報を漏らしてしまうケースも

「自分は個人情報を載せないように気をつけているから大丈夫」と考えている子どもたちも、中にはいるかもしれません。しかし、そうした場合でも安心はできません。インターネット上での友だちとのやりとりや、自分や友だちの投稿に、個人特定につながる情報が含まれていることもあります。具体的には以下のようなケースです。

- ・ 写真に写り込んだ宅配便の伝票から住所が判明
- ・ 友だちとのやりとりで文化祭の名称を出したことから学校名が判明
- ・ 友だちの投稿から自分の顔と名字が判明



インターネットに個人情報を載せていると、自分になりすまされたり、一方的に好意を寄せられてつきまとわれたりすることもあります。また、不適切な投稿をしてしまった際に、その投稿とあわせて個人情報を拡散されてしまうようなことにもなりかねません。

子どもたちにはそうした危険性をきちんと理解させる必要があります。そのうえで、インターネットに投稿する際は、自分や友だちの個人情報が含まれていないか事前に必ず確認する習慣をつけるよう、指導していくことが大切です。